

授業科目	* 薬理学				単位	2				
履 修	必修	関連資格	高一種免(看護) 養教一種免			ナンバリング	NU11109J			
開講年次	2年	開講時期	前期	該当DP	DP1-2					
担当教員	大住 伴子									
授業概要	薬理学は、薬物と生体がどのように作用しあうのかを学ぶ学問である。総論では、薬物の作用の仕方(作用機序)、薬物と有害作用、薬物の効果に影響する要因などについて学ぶ。各論では、主要な薬物について、その薬物とその疾患に対しなぜ効くのか、またどのような有害作用があるのかを理解し、医薬品の適正使用のための知識を身につける。									
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の法規制や適切な保管管理について説明できる。 2. 薬理学の基本用語を習得し、医薬品添付文書が理解できる。 3. 薬物の生体内運命を説明できる。 4. 薬効に影響する要因について説明できる。 5. 主要な薬物の作用機序、薬理作用、有害作用を説明できる。 									
達成度評価										
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考		
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100			
知識・理解 (DP1-1)										
知識・理解 (DP1-2)	100	0	0	0	0	0	100			
知識・理解 (DP1-3)										
知識・理解 (DP1-4)										
思考・判断 (DP2-1)										
思考・判断 (DP2-2)										
関心・意欲 (DP3-1)										
関心・意欲 (DP3-2)										
態度 (DP4-1)										
態度 (DP4-2)										
態度 (DP4-3)										
技能・表現 (DP5-1)										
技能・表現 (DP5-2)										
技能・表現 (DP5-3)										
具体的な達成の目安										
理想的レベル					標準的なレベル					
成績評価「秀」で、総論の内容(薬物の体内動態など)を充分理解でき、説明できる。各論では、医薬品について、看護師として必要な知識を充分身に付け、患者などに説明することができる。さらに、新薬についても対応できる。					成績評価「良」で、総論の基本的内容を理解し、説明することができる。各論では、看護師として必要な基本的な医薬品の知識を持ち、患者などに説明することができる。					
授業計画										
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法		学習課題(予習・復習)			予習・復習時間(分)	

1	テーマ:薬理学総論 1 薬理学とは、薬物とは、医薬品とは何かを概説する。	講義	復習:該当箇所の復習	30
2	テーマ:薬理学総論 2 薬物の作用機序と薬物受容体について解説する。	講義	復習:該当箇所の復習	30
3	テーマ:薬理学総論 3 薬効に影響を与える要因について解説する。	講義	復習:該当箇所の復習	30
4	テーマ:薬理学総論 4 薬物の生体内運命について解説する。	講義	復習:該当箇所の復習	30
5	テーマ:薬理学総論 5 薬物の有害作用、相互作用について解説する。	講義	復習:該当箇所の復習	30
6	テーマ:薬理学総論 6 医薬品に関する法律、保管方法などについて解説する。	講義	復習:総論の復習	50
7	テーマ:抗感染症薬 抗菌薬(抗生物質、ニューキノロン薬)、抗結核薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬について解説する。	講義	復習:該当箇所の復習	30
8	テーマ:消毒薬、抗がん薬、免疫治療薬 消毒薬、抗腫瘍薬、免疫増強薬、免疫抑制薬について解説する。	講義	復習:該当箇所の復習	30
9	テーマ:抗アレルギー薬、抗炎症薬 抗アレルギー薬、抗炎症薬について解説する。	講義	復習:該当箇所の復習	30
10	テーマ:末梢神経作用薬 自律神経系(交感神経、副交感神経)に作用する薬物、筋弛緩薬、局所麻酔薬について解説する。	講義	復習:該当箇所の復習	30
11	テーマ:中枢神経作用薬 1 全身麻酔薬、催眠薬、抗不安薬について解説する。	講義	復習:該当箇所の復習	30
12	テーマ:中枢神経作用薬 2 抗てんかん薬、抗パーキンソン病薬、抗うつ薬、抗精神病薬、麻薬性鎮痛薬について解説する。	講義	復習:該当箇所の復習	30
13	テーマ:循環器作用薬 高血圧症、不整脈、心不全、狭心症の治療薬について解説する。	講義	復習:該当箇所の復習	30
14	テーマ:血液系作用薬 血液凝固を抑制する薬物(抗凝固薬、抗血小板薬、血栓溶解薬)、止血薬、貧血治療薬などについて解説する。	講義	復習:該当箇所の復習	30
15	テーマ:呼吸器系・消化器系作用薬、物質代謝に作用する薬物 気管支喘息、消化性潰瘍、糖尿病、骨粗鬆症などの治療薬について解説する。	講義	復習:15回の講義全般の復習	90
16				
17				
18				
19				
20				
21				

22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	生化学、生理学、とくに病態生理学について復習しておく、講義が理解しやすい。			
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 3 薬理学 第14版(吉岡 充弘 他著、医学書院、2018年、2,484円)			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	参考図書：治療薬マニュアル 2019(医学書院)、くすりの地図帳(講談社) 教材：必要に応じて資料を配布する			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	医薬品に関する様々なニュース等に関心を持つようにする。			
達成度評価に関するコメント	試験に関する内容は講義中に指示する。			